君津市地域おこし協力隊活動報告

隊員名：深山 雅弘
指名日：令和４年 11 月 10 日

活動月	令和５年 １月
主な活動内容	**1. 「移住・交流＆地域おこしフェア」に参加しました。** **2. 君津市小糸地区の空き家捜索** **3. 君津移住の事例取材を行いました。** **4. 異業種交流会で君津を PR**

１.「移住・交流＆地域おこしフェア」に参加しました。

東京ビッグサイトで開催された「移住・交流&地域おこしフェア」に君津市として参加しました。これは全国から200を超える自治体が集まり、自治体の担当者から直接話が聞けるというイベントです。あいにくの雨模様でしたが、大勢の来場者で大盛況でした。

君津市ブースに立ち寄ってくださった方は、就学前の小さなお子さんを持つ若いご夫婦から定年後の住まいを探している方まで様々。なぜ君津に興味を持ってくれたのかを尋ねると、皆さん一様に「都内へのアクセスの良さ」をあげられました。

移住するとしたら、まったく縁のない土地よりも、仕事のこともあるので都内へのアクセスが良いところがいいと。これは私も同感。同じ考えを持つ方はたくさんいるんだと改めて再確認できた１日でした。

その反面、君津での暮らしがイメージできないという意見もあり。先輩移住者と情報交換できる場の提供や、お試し移住できる仕組み作りなど、やらなきゃいけないことは、まだまだたくさんありますね。

JOIN 移住・交流&地域おこしフェア
https://www.iju-join.jp/feature_cont/file/108/

２．君津市小糸地区の空き家捜索

君津市小糸地区で自治会長をされておられる勝さんにご案内いただき、空き家捜索してまいりました。その結果、勝さんが把握している町内でだけで空き家が３件、空き地が２件確認できました。

これらは完全な空き家ではなく、月１程度、ご家族の方が部屋の換気や庭のお手入れに訪れたり、今も物置きとして使用しているなど、住んではいないがほぼ使用していない「準空き家」です。どちらのお宅も手入れが行き届き、眠らせておくのはもったいないなと感じました（※上記写真はイメージで実際の物件写真ではありません）。

君津に限らず日本中でこのような「準空き家」はものすごい量あると思います。しかし、手放したいのに時間とコストをかけて「準空き家」を維持し続けている。そこには様々な事情があります。これから時間をかけてオーナーさんの相談に乗り、空き家の持ち主、空き家を利用する方、そしてその地域の皆さんがオールハッピーになる空き家利活用を提案してまいります。

3. 君津移住の事例取材を行いました。

おひとりは、東京上野でゲーム開発の会社を経営されているＴ様。私の清和オフィスから車で 10 分ほどのところにある今のお住まいを 1 年ほど前に購入され、平日は東京、週末は君津という 2 拠点生活をされています。

鴨川へ遊びに行った帰り道で「この辺いいとこだな」と以前から気にされていたそうです。君津清和エリアに決めたのは、土壌がしっかりしていて災害に強いというところが理由のひとつ。そしてなにより都内から近いこと！

もうおひとりは清和地区の奥米で古民家をリフォームして住まわれているオーストラリア出身のＭ様。Ｍ様ご夫妻は渋谷にお住まいで、週末のセカンドハウスとして古民家を探していました。長野や新潟と探し回りましたが、それらは週末にでかけるには遠すぎた。なので東京から通うことを考え千葉県内に焦点を絞り、運よく今の奥米の家を見つけたとの事。

これまでは週末別荘として使っていましたが、コロナ禍をきっかけに生活のすべてを奥米に移し、完全移住されたそうです。Ｍ様のお宅には海外や都内からたくさんの友達がやってきます。友達は皆、日本の田舎や古民家が大好きで千葉の田舎に移り住み。この地で外国人のコミュニティができつつあるのを感じました。

4. 異業種交流会で君津を PR

都内の異業種交流会に出席し、君津市への移住や２拠点生活、ワーケーションの PR をしてきました。そこでいただいたのは「君津は知ってるが、行ったことない」、「アクアライン使えばすぐなんでしょ、でも行く機会がないし」、「セカンドホームを探しているが、君津でどう探せばいいのか分からない」という意見。

今月取材した 2 事例も「都内からのアクセスがいい」というのが君津を選んだキーポイントとなっています。ビッグサイトの「移住・交流&地域おこしフェア」でも同じ意見を聞きました。しかしながら、都心部で暮らす方が「君津に行ったことがない・行く機会がない」というのも事実。とにかくいちど君津に足を運んでもらい、君津を体験していただくイベント企画を地域コミュニティの皆さまと一緒に考え、実行していきたいと思います。

地域おこし
君津市
協力隊